

## 平成22年度 第2回

# 四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、技術が育成し、社会に還元されることを目的に『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を開催いたします。

記

### 「平成22年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成22年11月15日（月）13：30～15：30

場所：四国地方整備局 13階 1307会議室

#### 【審議事項 概要】

#### 1. 新技術の事後評価

事後評価：工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

（6件） 今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

#### 2. 『四国テーマ設定技術』

次の技術について現場で試行するための試行計画書の審査を行います。

四国テーマ設定技術名：構造物保全技術（簡易点検技術）

1. 『KUMONOS（KK-080019A）』

2. 『赤外線調査トータルサポートシステム Jシステム（未登録）』

#### ＜取材でのお願い＞

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成22年11月11日

＜問い合わせ先＞



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

施工企画課長補佐

わしづ たかひろ  
鷺津 隆廣  
ふるさわひろゆき  
古澤 弘行

（087-851-8061 内線 3451）

（087-851-8061 内線 3453）

## ～審議技術の概要～

## ＜事後評価＞

## 『スパーカルバート(CB-980060-A)』

スパーカルバートは、構造用鉄筋を埋設した頂版部材、側壁部材のプレキャスト部材と場所打ちコンクリートで構成される。プレキャスト側壁および頂版部材を施工現場に搬入し組み立てた後、底版、側壁および頂版に場所打ちコンクリートを打設してボックスカルバートを構築する工法である。

## 『バンブーバリヤー(SK-050006-A)』

バンブーバリヤーは竹専用の根茎調整資材です。高密度ポリエチレンのリサイクル製品で、薬品等は一切使用せず、物理的に抑制します。環境にやさしい製品です。

## 『スパーライト700(KK-020002-A)』

高張力鋼 (700N/mm<sup>2</sup>)による薄肉足場鋼管である。労働安全衛生規則に準拠した本技術の採用で鋼管重量が25%軽量できるので、運搬コストの縮減、安全性・施工性の向上、省資源化に寄与出来る。

## 『枠組足場用布板「セイフティウォーク」(KK-070009-A)』

本技術は枠組足場に用いる鋼製布板の「隙間」を少なくしたものである。本技術の活用により、下段への小物等の落下阻止及び、布板の横ズレ防止となり、より安全な作業空間が期待できる。

## 『リボーン側溝(CG-980014-A)』

リボーン側溝は、受けの部分・蓋の部分アールにする事で、蓋と本体との接触を安定させ構造的に車の通行による騒音の発生を減少させる側溝です。

## 『コンクリート製品搬送据付装置「リフトローラー工法」(CB-990105-A)』

本工法は、市街地など施工現場が狭く仮設道路の造れないところや、電線下や道路・鉄道の高架下など上部に制限があるところ等、クレーンでの施工が困難な場所でも、コンクリート二次製品の搬送から据付までの一連の作業を連続的に行うことが出来る工法である。

※ 技術の詳細は、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

# 平成22年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会

## 議事次第(案)

日時：平成22年11月15日(月) 13:30～15:30

場所：四国地方整備局 13階 1307会議室

### 1. 開会

### 2. 平成22年度第1回新技術活用評価委員会報告等

### 3. 審議

#### 3-1 事後評価について

#### 3-2 平成22年度四国テーマ設定技術について

### 4. その他

### 5. 閉会

# 「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

## 1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

## 2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

### (大 学 6名)

望月 秋利 徳島大学 名誉教授(基礎工学、土質力学)  
吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)  
松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)  
山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)  
高木 方隆 高知工科大学工学部 教授(国土情報処理工学)  
渡邊 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授  
(コンクリート工学)

### (産 業 界 3名)

(社)日本土木工業協会四国支部 技術・公共工事委員会 技術・防災専門委員長  
(社)建設コンサルタント協会四国支部 企画委員会 委員長  
(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

### (研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料地盤研究グループ長  
(独)港湾空港技術研究所 研究企画官

### (整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名